

【総評】

受験生の皆さんお疲れさまでした。今年の入試は、昨年の出題形式から大きな変化はなく、落ち着いて取り組み始めた受験生が多いのではないのでしょうか。思うように得点のがびなかった人、意外と得点できた人、普段なら解ける問題をミスしてしまった人など、いろいろな人がいることと思いますが、まずは全力を尽くした皆さんに拍手を送りたいと思います。高校入試は、中学生の皆さんにとって人生の節目であることは間違いありませんが、最も重要なのは、今回の経験を今後どのように生かしていくかということです。高校入試に向けて精一杯頑張れた人は、今回の結果に関わらず、今後の人生の節目においてもしっかりと自信を持って進んでいけるでしょう。「自分はもう少し頑張れたのではないか」「もっと頑張れば良かった」と考えている人は、今後の大学入試などの機会には同じ失敗を繰り返さずに精一杯頑張る前に進んでください。その経験が皆さんを強くし、今後の人生の糧になるはずですよ。ぜんけん模試事務局も皆さんの今後の頑張りを影ながら応援しております。また、保護者の方々も、受験したお子さん以上に「やっと終わったか…」という安堵のため息をついておられることと思います。本当にお疲れさまでした。

以下、今年の入試について簡単にコメントいたします。

【難易度】

5教科の合計としては、昨年と比べて易しめの出題だったことは間違いのないでしょう。教科別に見ると、基本問題の出題が増えた国語・理科を中心に得点のがびたと思われれます。

【出題内容】

出題形式は昨年から大きな変更はありませんでしたので、落ちついて対応できたことと思います。表やグラフなどの読み取りやデータの活用に重点をおかれた出題や思考力が試される出題も見られ、今後の新学習指導要領の実施、大学入試改革に向けて、このような傾向が加速していくと考えられます。

【国語】

- 難易度…例年に比べて易しく、平均点は昨年（61.7点）よりも大幅に上がることが予想されます。
- 構成…例年第四問で出題されていた、漢字・実用的文章が第一問へ移動しましたが、出題形式に大幅な変更はありませんでした。
- 第一問…漢字は例年に比べて、易くなりました。問二の実用的文章は、素材文の量は大幅に増えましたが、問いの内容は平易でした。
- 第二問…明治時代が舞台の小説ですが、文章自体は読みやすく、問いも例年に比べて、易くなりました。問五の模範解答は文中の表現を別の言葉に置き換えてまとめているため、模範解答通りに書けた人は少ないかもしれません。
- 第三問…例年に比べて、易くなりました。指定語句のある記述(問五)は、近年の入試では見かけなかったパターンのため、戸惑った方もいるかもしれませんが、答えの誘導になっていて、かえって解きやすかったように思います。
- 第四問…問二、問三は答えの根拠となる部分に現代語訳が与えられているため、容易だったと思います。
- 第五問…近年の傾向通り、複数の中から一つを選び、理由を書く作文です。オーソドックスなテーマだったため、比較的書きやすかったのではないのでしょうか。

【数学】

- 難易度…第二問は例年にくらべて易しく、基本問題中心の出題で取り組み易かったと思います。第三問は構成が例年と変わったため、実際の難易度以上に取り組みにくく感じ、時間もかかっただろうと思います。第四問は内容としては易しいですが、円に内接することに思い至らなければ全体をとりこぼしている可能性があります。全体を通して、中～下位の生徒にとっては例年にくらべて取り組み易く、中～上位の生徒にとっては対応力が問われるハードな出題だったのではないかと思います。
- 構成・形式…第四問が1題減、第三問が2題増。第三問は、資料の活用・速さもからめた総合問題になり、思考力と活用力を問われる出題となりました。
- 第一問…難問が少なく取り組み易いですが、平方根の計算や2次方程式（重解）など、中下位の生徒にとっては見慣れない出題もあり戸惑ったかもしれません。
- 第二問…問題文が短くシンプルな問題が並び、中・上位の生徒にとっては易しかったと思います。3の一次方程式はケアレスミスを誘発しそうな設定。
- 第三問…読解力も必要で、様々な知識を組み合わせる解く問が多く、中～下位の生徒には厳しかったと思います。上位校の生徒でも、単位の換算などに戸惑い、相当時間がかかったのではないかと思います。文章による説明（中央値を用いた方がよい理由）の出題もあり、活用力とともに表現力も問われました。
- 第四問…問題数は例年より少なく、最終問も例年に比べ易いのですが、「円周角の定理の逆」が定着していない生徒にとってはそもそもの設定に気づくことが難しかったかもしれません。

【社会】

- 難易度…昨年より易しめの出題でした。平均点は昨年（63.4点）より上がることが予想されます。
- 構成・形式…例年通りの大問構成で、全体の小問数は30問。配点は各大問とも20点でした。形式は、例年に比べて語句で解答する問題が減り、新たに作図が1問出題されました。
- 第一問（地理）…中国とインドに関する問題でした。2(2)の記述問題では、資料から考えて自分の言葉でまとめるのに少し苦労したかもしれません。
- 第二問（歴史）…貿易政策の歴史に関する問題で、標準的な難易度でした。6の記述問題は資料1、資料2のそれぞれからわかることを書けばよいので解答しやすかったのではないかと思います。
- 第三問（公民）…政治参加に関する問題で、記述問題を含め標準的な難易度でした。5(1)は選択肢の文と資料Bの数値を一つ一つ照らし合わせるが必要とされました。
- 第四問（地理・歴史）…オリンピックを題材とした問題でした。3(1)では関東地方と中部地方の地方区分を線で示すという問題が出題されました。宮城県では見慣れない出題でしたが、難易度はそれほど高いものではありませんでした。
- 第五問（歴史・公民）…教育に関する問題でした。語句で解答する問題を含め、難易度の高い出題はありませんでしたが、6の記述問題は、資料をもとに、「取り組みを通して目指す社会」について自分の言葉でまとめる力が必要とされました。

【理科】

- 難易度…思考力が必要とされる問題が数問ある程度で、全体として標準的な難易度が多く出題されていましたので、平均点は昨年（51.6点）より上がり、50点台後半になると考えられます。
- 構成…例年通りの形式でした。全体の小問数は33問で、配点は第一問が12点、第二問から第五問は各16点でした。完全解答は5問、記述は3問、作図は1問でした。
- 第一問（小問集合）…植物のつくり（生物）、陰極線（物理）、気圧と風（地学）、状態変化（化学）からの出題でした。どれも基本的な問題でしたので、取りこぼすことなく確実に得点したいところです。
- 第二問（地学・火山）…火山灰にふくまれる鉱物の調査に関する問題でした。4の鉱物の分類がやや難しく感じられたかもしれませんが、5の記述をふくめて標準的な難易度の出題でした。
- 第三問（化学・化学変化）…金属と硫黄の化合の実験に関する問題でした。5は計算問題でしたが、ひとつひとつ順を追って考えていけば正答にたどりつくのはさほど難しくなかったと考えられます。
- 第四問（生物・自然環境）…自然環境の調査に関する問題でした。4(2)は、調査の表1から読み取れることに加え、4の表2から読み取れることもあわせて考えることが求められました。
- 第五問（物理・運動とエネルギー）…仕事の大きさに関する問題でした。1は仕事、2は仕事率で、よく見られる出題でした。4はどちらも合力についての問題で、数学の図形的な考え方が必要とされたので、やや難しい出題でした。

【英語】

- 難易度…全体として、オーソドックスで答えやすい問いが多かったようですので、平均点は昨年よりも多少上がると考えられます。
- 構成…大問構成は例年通りでしたが、第一問のリスニングと第二問の小問集合の配点が増え、その分、第三問の長文読解の配点が減りました。
- 第一問（リスニング）…昨年の形式に加えて1題増え、配点も4点増えました。易しく素直な問いが多かったですが、新しい形式の出題に戸惑った人もいたかもしれません。
- 第二問（小問集合）…並べかえの小問1題、計2題が増え、配点は7点増えました。難問はありませんでしたが、しっかり内容を把握していないと解けない問いが多かったと思います。
- 第三問（長文読解）…昨年同様の出題形式でしたが、配点は大幅に減りました。「宇宙エレベーター」という題材でしたが、複雑な内容ではなく、読みづらさはありませんでした。問いは内容を把握しているかどうか問われるもので、難問ではありませんが、きちんと本文を理解してなければ解けないものでした。
- 第四問（長文読解）…出題形式・配点とも、概ね例年通りでした。会話文形式の長文読解問題で、「学校のマスコット」という読み取りやすい題材でした。5はここ数年では目新しい出題で、選択問題ではありませんが、易しくはなかったと思います。
- 第五問（英作文）…出題形式・配点とも昨年同様でした。外国人観光客との会話というイメージしやすい題材でしたが、2は自由度が高く、書き慣れていない人にとっては3文以上で表すのが難しかったかもしれません。